

報道機関各位

令和 8 年 年頭所感

あけましておめでとうございます。昨年に引き続き、本年もとても穏やかな新年を迎えることができました。穏やかな癒しの町として、葉山町を本年もなにとぞよろしくお願ひいたします。

昨春、第五次総合計画を策定し、「ウェルビーイング」という言葉を初めて明記しました。すべての町民が心身ともに健やかで、安心して暮らせる町を目指すという新たな指針です。人口減少や物価高騰、気候変動など、社会全体が直面する課題に対して、行政の果たすべき役割はますます大きくなっています。その課題の一つである公共交通には、高齢者等へのタクシー券補助やシェアサイクル支援、「はやまるタクシー」の試行を進め、年末には無料券を配布するなど、暮らしを支える新たな福祉の形をまさに模索しています。

また、昨夏は「公共施設等将来構想」を公表し、町の財政や地域の活力を見据えた施設の再編についても方針を定めました。堀内会館や福祉文化会館、学校再編も構想に含まれています。長年ご寄附をいただきながら課題が続いている「臨御橋」は、今年から 3 年かけて改修工事に入ります。風早橋バスペイも県の工事ではありますが、いよいよ完成予定です。施設整備は、未来の葉山を形づくる大きな分岐点となります。行政や関係者だけでは分からない知恵や工夫、地域の皆様の声をいただきながら、具体的な計画、設計に向けて、これまでに増して知恵を寄せ合い、話し合い、なるべく多くの人々が同じ方向に向いて町を創造できるよう、様々な場面を用いて意見交換を重ねて、文字どおり町民の皆様とともにまちづくりを進めてまいりたく思います。

皆様にお手間をおかけしている生ごみ資源化につきましては、順調に分解・堆肥化が進んでいます。環境の町、エシカルな暮らしや人のつながりのある町として、昨年末には環境と社会を良くする取組を表彰する、環境省主催「第 13 回グッドライフアワード」で環境大臣賞・優秀賞もいただきました。まさに町民の皆様の協力の賜物と思います。本年は逗子市との生ごみ共同処理の開始を目指しますが、広い視座で見れば、広域連携は引き続き、さらに広く進めていく必要性を感じています。

人々のつながり方や価値観の多様化が、暮らしやコミュニティ形成の変化を大きくしており、さらには物価高騰や人手不足も相まって、社会情勢や社会構造は大きく速く変化しています。それを支える行政として、葉山町では、国からの重点支援地方交付金を町民の方が広く利用できる現金給付をベースとして、小中学校の給食費の補填にも充てていきたいと思っています。また、高齢化の進展に伴い、救急需要も増加の一途をたどっており、消防職員の増員と救急車の増車も目指してまいります。

新たな世紀の葉山を守り将来に引き継ぐために、縁の下の力持ちとして尽力する所存です。本年も葉山町をよろしくお願ひいたします。

令和 8 年 1 月 8 日
葉山町長 山梨崇仁